

125歳まで開発できる

時実：前に、ソフトウェアのあるのは人間だけだ。と申しましたが、このソフトウェアは、125歳まで開発できる、と言われていました。だから、年を取っても「何かをしたい」「あれをやり終えたい」というように、ソフトウェアの働きは続くのです。人間は、常に、何かをしたいと思ひ、何かしないではいられないものです。もし、「何もしないで、狭い部屋にじっと坐っていなさい」と言われて、その通りにしていたら、たいがいの方が、頭がおかしくなってしまうよ。

柳平：人間の脳は、働くようにできているんですね。それにしても、125歳までも、私たちの脳は開発できるのだ、とうかがって、心強く思いました。

時実：教育は、詰め込むことよりも、モチベーションを促すことの方が大切ですが、今、一番それを必要としているのは高校生ですよ。昔は、高校生ぐらいになったら、親の反対を押し切っても、自分の好きな道に進む、というモチベーションがありました。けれども、今の高校生は、試験の結果で学校を決め、親の言うなりになっていますね。おたくでも、高校生のモチベーションを促すようなことは出来ませんか(笑い)。

柳平：確かにおっしゃる通りだと思います。ところで、今後の教育の見通しについておうかがいしたいと存じます。

時実：そんなに悲観することはないと思います。今、戦後の詰め込み教育に対して反省が起こっていますが、それが行き過ぎて、行き過ぎに気づき、元に戻ろうとするのに20年間かかっていま

す。ですから、教育は長い目で見ませんと……。長い目で見ますと、人間の知恵で行き過ぎは必ず是正される、と思います。

(「漢字漢文」昭和47年6月号)

時実・柳平氏の対談について

「教育は、詰め込むことよりも、モチベーションを促すことの方が大切」と、時実先生は、この対談の中で語っていらっしゃいます。モチベーションとは、意欲とか、やる気とかいう意味の言葉ですが、このことの重要性を指摘し、これを鼓吹することに意欲的な柳平氏の発案で幼児“モチベーションセンター”が開設されたのは、昭和43年のことです。(石井が所長、柳平氏が副所長)以来、柳平氏は、しばしば各界の名士と対談を行なってきましたが、この対談はその一つです。

時実先生は48年に亡くなられましたが、改めて申すまでもなく、わが国の大脳生理学の第一人者として有名な先生でした。著書も『脳の話』『人間であること』(岩波新書)など数多く刊行されていますが、特に、幼児の漢字教育についての御意見は、他には見られない貴重なものだと思いますので、ここに紹介することにしました。

「幼児が漢字を覚えることは、言葉を覚えるよりもやさしいものである」ということを、私は、実験により明らかにしましたが、時実先生は、大脳生理学の立場から、理論的にこれを説明して下さいました。

特に「漢字を読むことは、言葉を話すことと同じだ」と言い、「言葉がわかるなら、漢字がわかっても当然」と述べている点を、よく読み取っていただきたい、と思います。

(石井 勲)